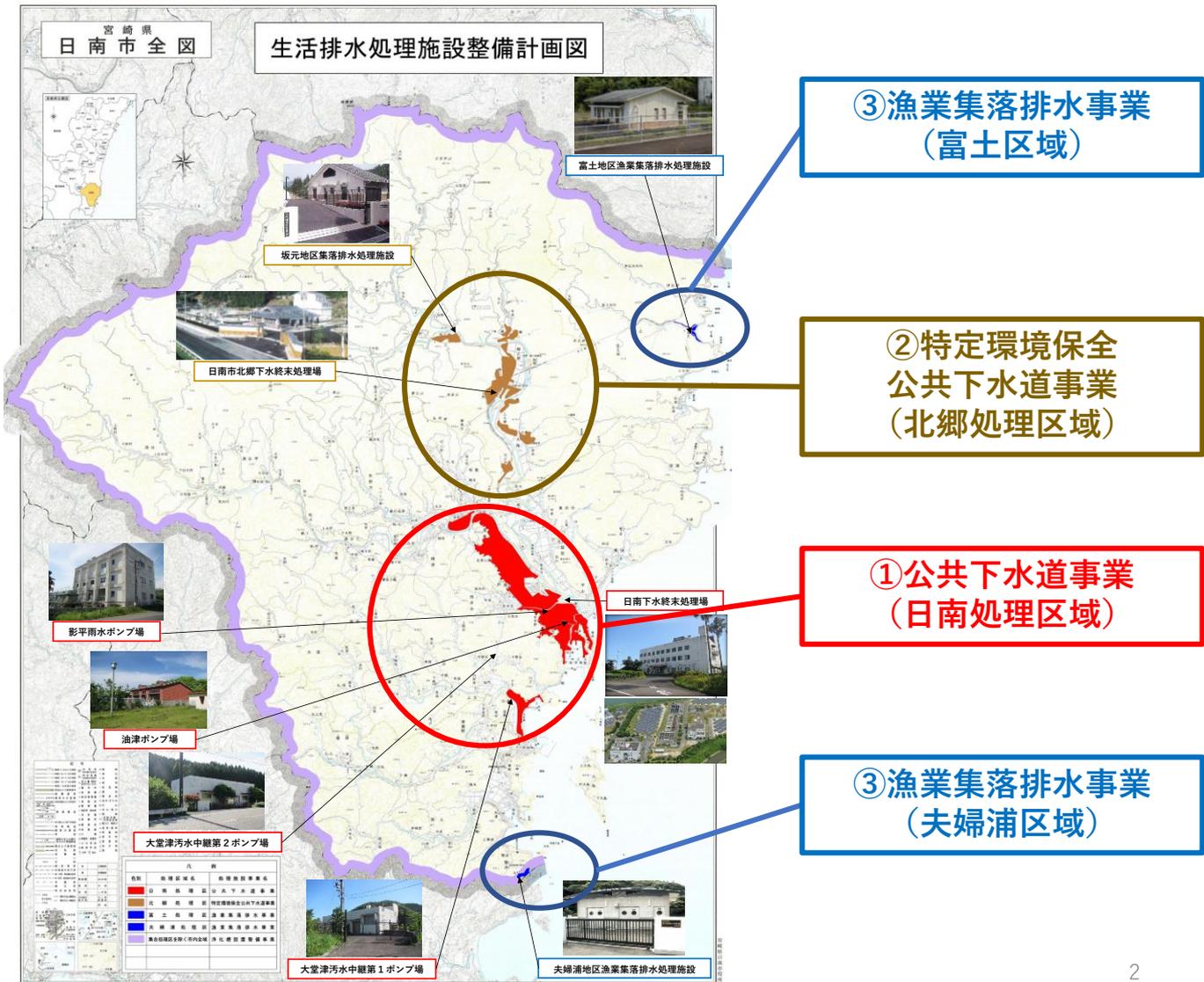


使用料改定に関する主な審議内容について (審議会資料概要版)

日南市 建設部 下水道課

下水道事業の計画概要及び整備状況

令和6年度末 供用開始区域図



公共下水道事業等の業務状況について

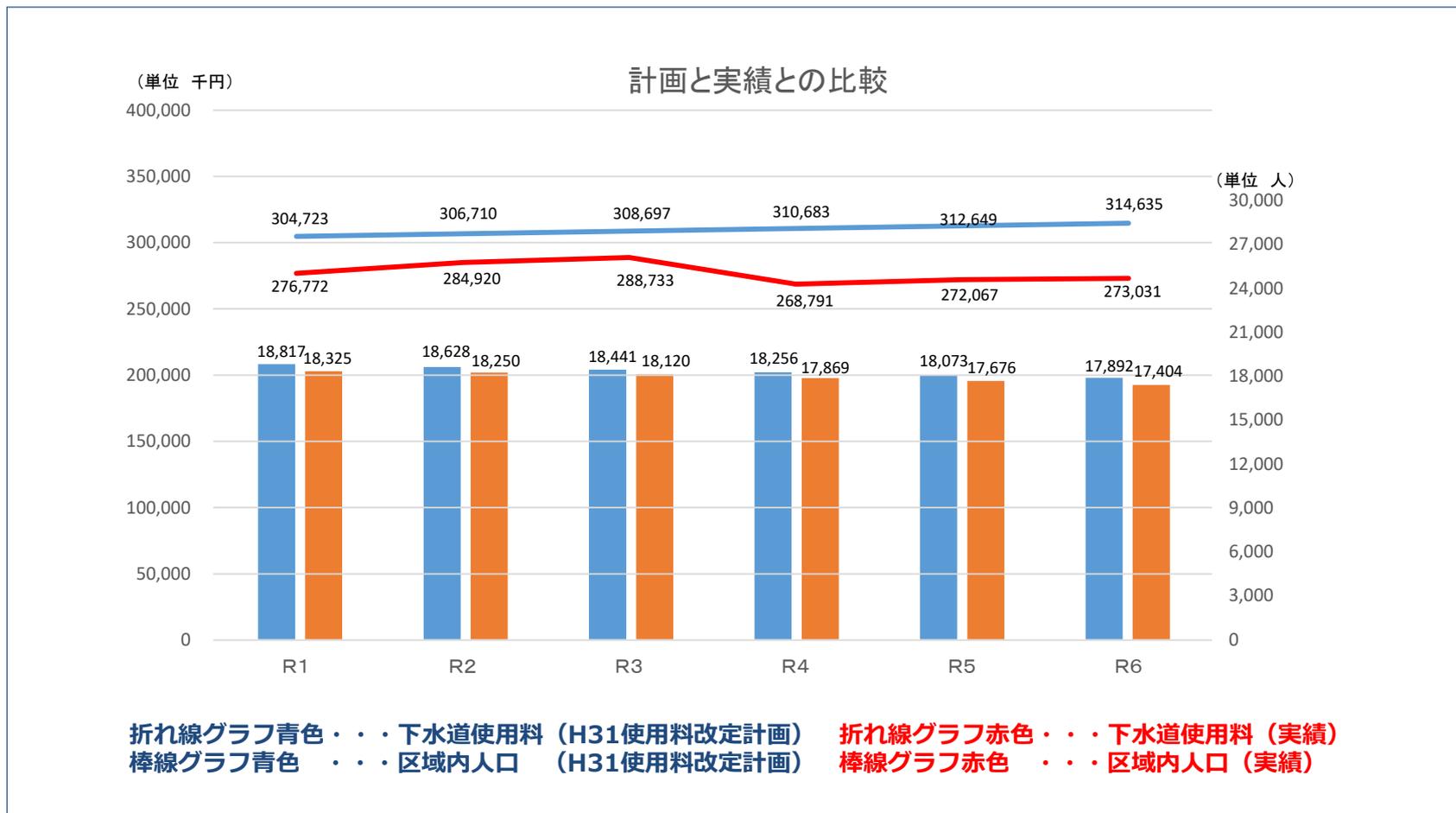
① 公共下水道事業など3事業会計の業務状況 【令和6年度実績】

区 分	処理区域 内人口 (人)	水洗化 人口 (人)	水洗 化率 (%)	下水道使用料 (円)	比率 (%)	年間 有収水量 (m ³)
公共	17,404	14,471	83.15	273,031,220	85.26	1,726,997
特環	2,944	2,187	74.29	43,863,942	13.70	257,393
漁集	231	228	98.70	3,318,556	1.04	21,895
合計	20,579	16,886	82.05	320,213,718	100	2,006,285

年間有収水量：処理場で処理した全汚水量のうち、下水道使用料徴収の対象となる水量を示す。

特環・漁集については、公共と比較して事業規模が小さいため、今後の下水道事業等の使用料改定については、公共を基準に試算しています。

② 前回計画時と実績との比較（公共下水道事業）



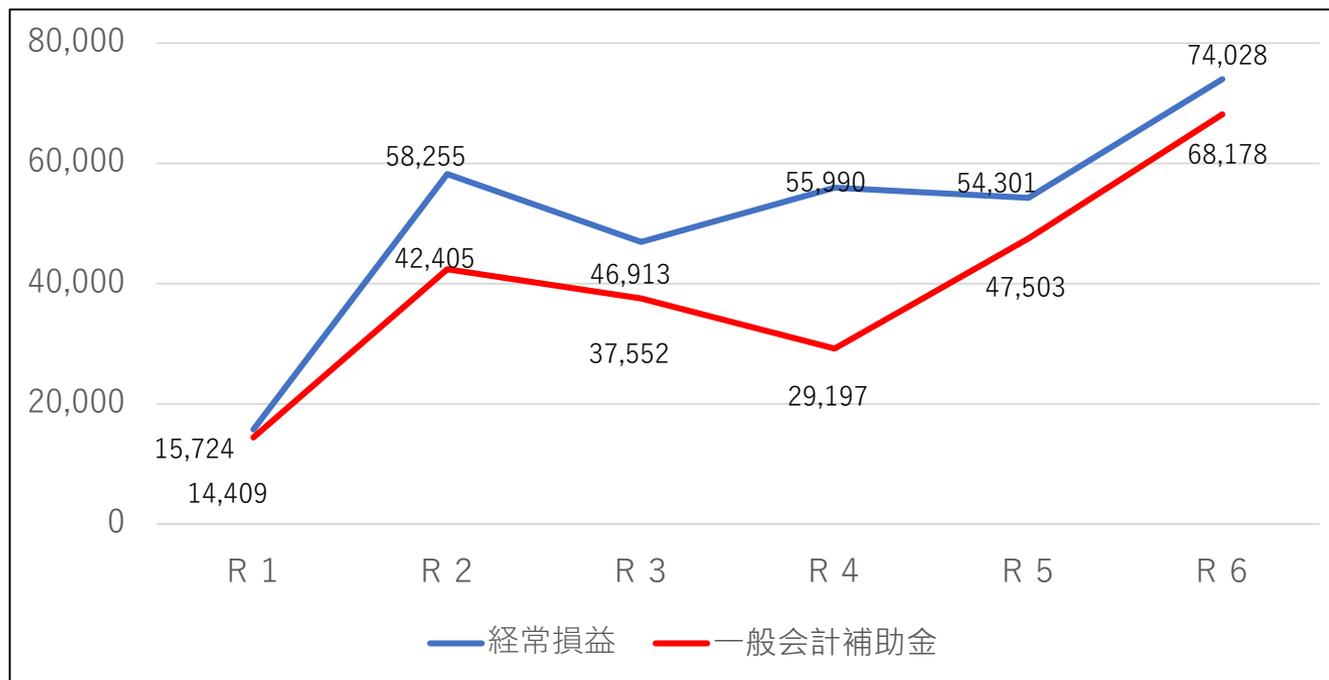
区域内人口の実績は、5年間で921人の減少であり、令和6年度で計画値と488人の差であります。現在、未普及地区解消を行ってはいますが区域内人口は減少しています。

下水道使用料の実績は、5年間で374万1千円減少しています。令和元年度から令和3年度までは、料金改定の効果で増加しましたが、令和3年度と令和6年度を比較すると減少しています。なお、令和4年度は2か月に1回の隔月検針が始まったことで11.5か月分の収入となっており、令和5年度は12.5か月分の収入となっています。

今後も人口減少と節水効果のある機器の普及のため、下水道使用料の減少は続くと思われます。

③ 経常損益と一般会計補助金の状況【公共下水道事業】

(単位：千円)



	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
経常損益	15,724	58,255	46,913	55,990	54,301	74,028
一般会計補助金	14,409	42,405	37,552	29,197	47,503	68,178

経常損益の黒字については、そのほとんどを一般会計補助金の収入が占めています。

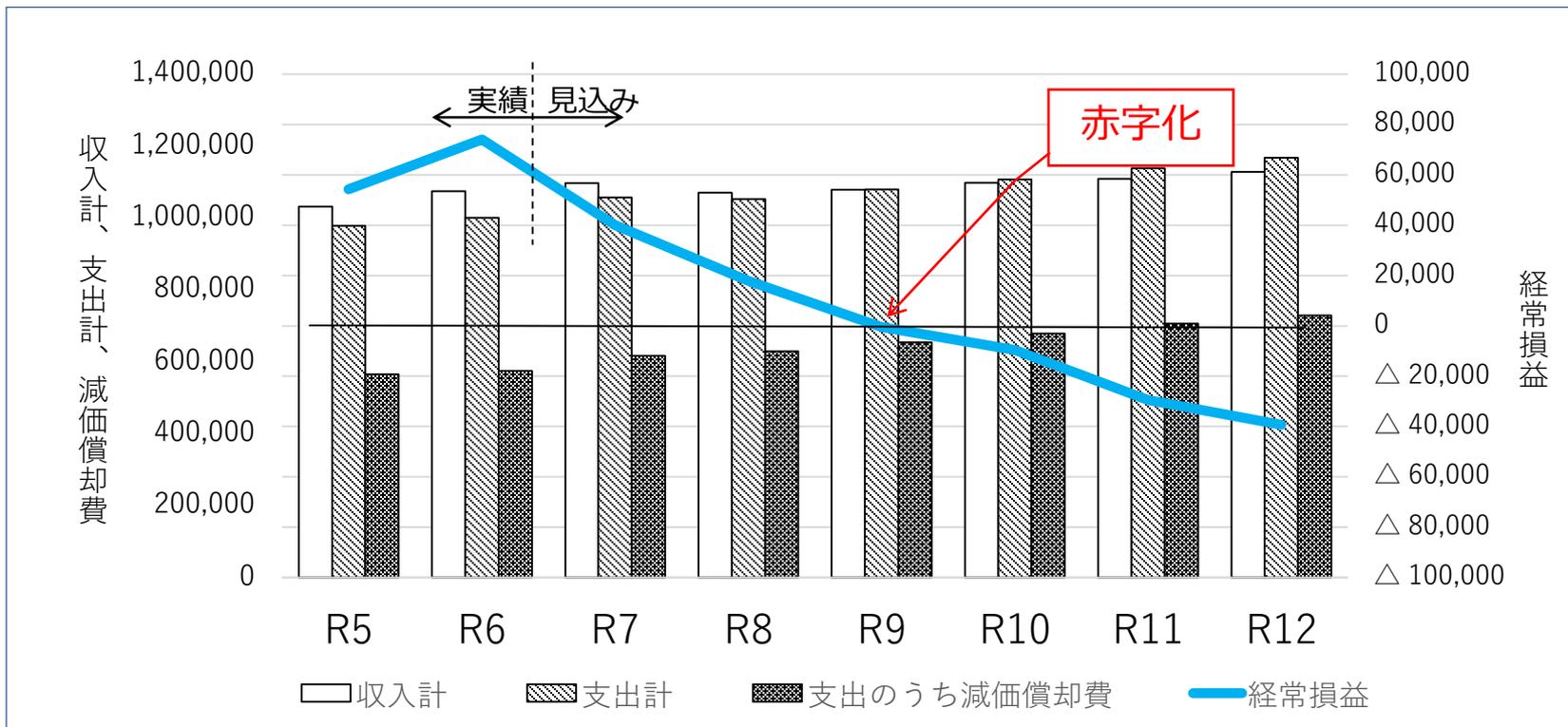
○経常損益・・・収入から支出を引いた金額。

収入は、主に下水道使用料、一般会計負担金、一般会計補助金、長期前受金戻入など。

支出は、主に減価償却費、維持管理費、支払利息など。

④ 今後の収支及び経常損益の見込み【公共下水道事業】

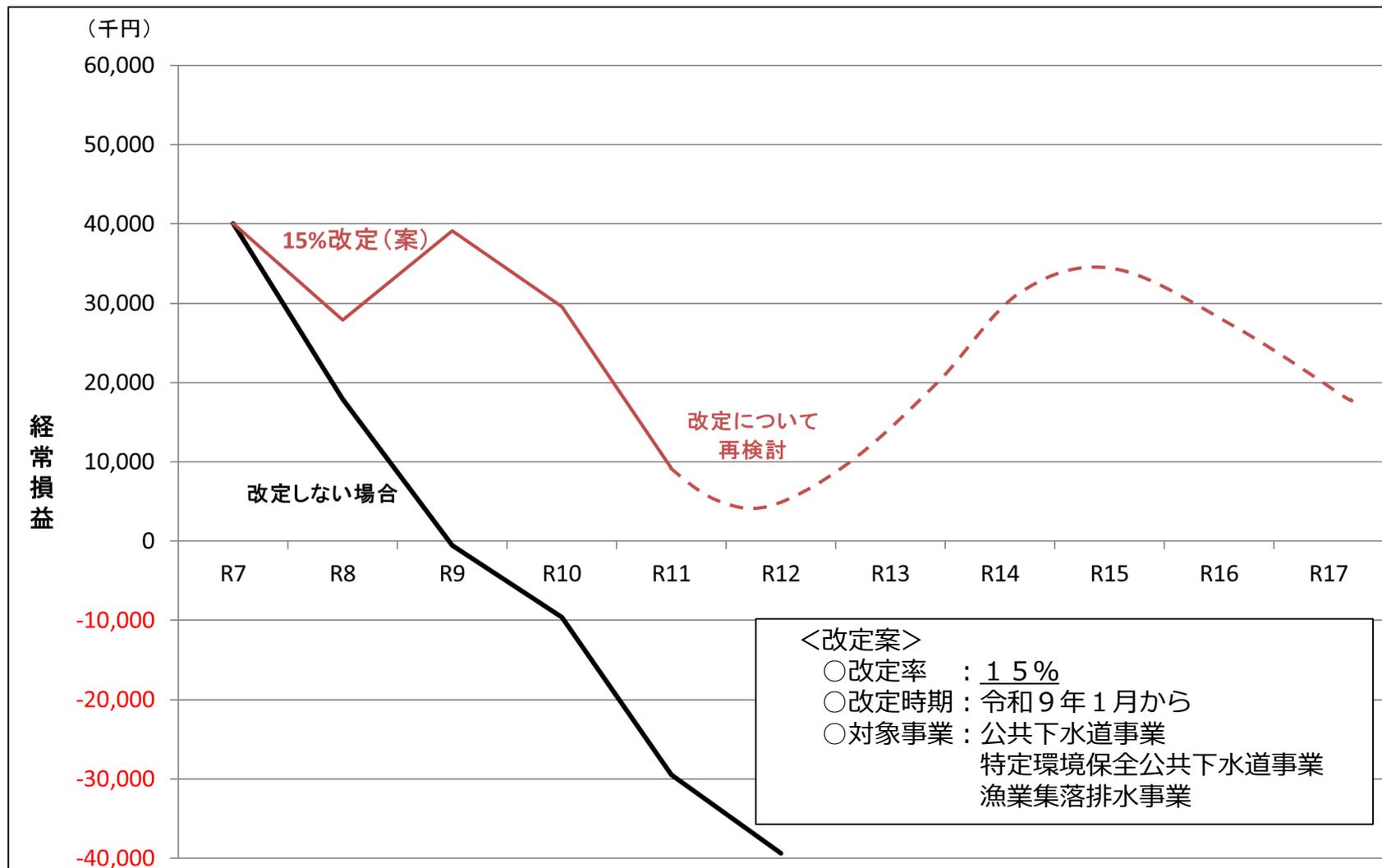
(単位：千円)



	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12
収入計	1,031,876	1,074,489	1,096,741	1,070,298	1,078,955	1,097,814	1,109,026	1,127,768
支出計	977,575	1,000,461	1,056,699	1,052,402	1,079,468	1,107,418	1,138,510	1,167,086
支出のうち減価償却費	565,729	574,828	616,737	629,466	653,990	678,596	706,690	729,107
経常損益	54,301	74,028	40,042	17,896	△513	△9,604	△29,484	△39,318

今後の収支の見込みについては、下水道施設等の改築更新により支出額における減価償却費が毎年増加し、一般会計補助金を毎年5,000万円繰り入れた場合でも、令和9年度には支出額が収入額を上回り、以降、経常損益における赤字額が増加する見込みとなっております。

⑤ 下水道使用料改定に関する経常損益のシミュレーション【公共下水道事業】



- 改定しない場合は、令和9年度の決算から赤字に転落し、以降、赤字額が拡大する見込みとなっています。
- 令和8年度中に使用料を15%改定した場合、令和12年度までの経常損益において、黒字の維持が見込まれますが、改定した場合でも、再度使用料の改定について検討する必要があります。